

# 令和5年度 南の星小学校 向上プラン



## P(計画)

## D(実施)

## C(評価)

## 自己評価

## A(改善)

説明責任

学び合う子

**【児童の状況】**  
 ・目新しいことには大変意欲的に取り組む。持続が難しい子も目立つ。  
 語彙が少なく自分の思いを表現できない子もいる。  
**【達成目標】**  
 ◎「授業の内容がよく分かる」(4段階評価)と答える子どもが8割以上。  
 ◎学年相当(単元末のテスト)で学級平均8割以上の得点。  
 ◎相手の思いや考えを理解しようと聴いたり、自分の思いや考えを適切な言葉で話したりすることができる。

**【目標達成に向けての取り組み】**  
 ・話し合い活動を意図的に、効果的に設定し、単元構想の工夫を図る。  
 ・聴く力・話す力を育むために、「聴き方名人」「話し方名人」を示し、系統的な指導をする。  
 ・語彙力や読みの力を高めるために、MIMを取り入れた学習を行う。  
 ・一人一人が安心できるような温かな学級風土づくりに努める。心を耕す道徳教育の充実を図る。

**【今年度の評価】**  
 ・話し合い活動を効果的に設定し、「心が動く授業」を目指してきたことで、主体的に学ぶ姿が多く見られた。  
 ・MIMが活用できたのは、低学年が中心となってしまったが、子供たちの読みの力を高めることができた。  
 ・「聴き方名人」「話し方名人」よりも、「聴こう、話そう」という言葉が子供たちに定着した。  
 ・「授業の内容がよく分かる」の回答が8割を超えることができたが、学年相当(単元末のテスト)は8割を超えていない実態がある。

**【改善策】**  
 ・「授業の内容がよく分かる」の回答が8割を超えることができたのは、子供の心が動く授業が、日々展開されているためであり、継続していきたい。  
 ・MIMは低学年で活用する場面が多いが、他学年でも活用場面が生まれるように校内研修で学ぶ機会を設定する。  
 ・学年相当(単元末のテスト)は8割を超えることができるようにするために、日々の授業を大切に、子供たちの学習内容の定着を図る。

素直な子(いじめ対策)

**【児童の状況】**  
 ・「学校生活が楽しい」と答える子は80%くらいである。気持ちのよい挨拶ができる子が多い。  
 ・その場に応じていない言葉遣いをしたり、友達に気持ちを上手に伝えられなかったりして、トラブルになることがある。  
**【達成目標】(児童自己評価)**  
 ◎「気持ちの良い挨拶が進んでできる」 80%以上  
 ◎「学校生活のルールやマナーを守っている。」80%以上  
 ◎「学校が好きだ、楽しいと思う」80%以上

**【目標達成に向けての取り組み】**  
 ・あいさつの充実を図る(強化月間の設定)  
 ・「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」についての発達段階ごとの指導  
 ・「南の星 みんなの約束」の各項目の日々の振り返りをする  
 ・「かがやき賞」や帰りの会でお互いを認め合う活動の設定  
 ・いじめ対策委員会で全職員のいじめに対する共通認識を高める。

**【今年度の評価】**  
 ・「学校生活が楽しい」と答える子は、90%を超えた。しかし、挨拶意識の低下がみられる。(80%以下)  
 ・「学校生活のルールやマナーを守っている」が、90%弱である。  
 ・その場に応じていない言葉遣いをしたり、友達に気持ちを上手に伝えられなかったりして、トラブルになることがある。

**【改善策】**  
 ・委員会活動や、月のめあて等を活用。  
 ・ルールやマナーが引き続き守ることのできるように、指導する。  
 ・「ふわふわことば」「ちくちくことば」等、発達段階ごとの指導を継続していく。また、いじめに対する全職員の共通理解を図る。

負けない子

**【児童の状況】**  
 ・新体力テストでは、全学年96項目中33項目(34%)が全国平均を上回った。  
 ・学校管理下における事故発生数(事故報告書件数)→R4(34)/R3(25)  
**【達成目標】**  
 ◎新体力テストで、項目の半数以上を全国の平均記録を上回る。  
 ◎校内廊下歩行などの指導を充実し、事故発生数の減少させる

**【目標達成に向けての取り組み】**  
 ・体力アップコンテストや持久走・縄跳びカードを通して運動に親しみやすい環境を作り、運動の日常化を図る。新体力テストを効果的に使い、目標記録をもってテストに臨ませる。  
 ・「自分の命は自分で守る」という安全意識が高まるように、子どもの発達段階を踏まえながら、日常生活の中で、体験的・具体的指導を行う。(交通安全教室、防災・防犯訓練等)

**【今年度の評価】**  
 ・なわとびカードや持久走カードの活用により、子供たちの意欲を高めることができた。  
 ・体力テストの結果から、日頃のドッジボールの取り組みの成果が表れ投擲力が向上してきた。一方、走りについては課題が残る。  
 ・学校管理下における事故発生件数が前年度を超えている。盛んなドッジボールによる突き指や骨折に加え、トラブルや悪ふざけによる事故も多数起きている。

**【改善策】**  
 ・子供たちの意欲維持、向上のためのなわとびカードや持久走カードは次年度も積極的に取り入れていく。  
 ・様々な運動能力向上と意欲向上のために、運動委員会主催の運動イベントを企画する。  
 ・ドッジボールによるけがを少しでも減らすために、ボールキャッチのこつを伝え、練習させる。  
 ・こうするこうなる、こうすれば大丈夫、という危険回避の指導を日常的に行う。

助け合う子

**【児童の状況】**  
 ・行儀やマナーが身に付いていない子がいる。  
 ・自分の気持ちを上手に伝えられなかったり、相手の気持ちを察することができなかつたりしてトラブルにつながる。  
**【達成目標】**  
 ○相手の気持ちを考えて自分の思いを伝える。(個人)  
 ○相手を思いやり互いに声を掛け合って活動する。(小集団)  
 ○自分のよさ友達のをよさを生かし合いながら、力を合わせて取り組む。(集団)

**【目標達成に向けての取り組み】**  
 ・ソーシャルスキルトレーニング(SST)の活用と話し方・聞き方の徹底  
 ・思いやりの心を育てるためのペア活動・異学年活動の充実(学年間遊び・給食・委員会活動等)  
 ・各学級で小集団の活動を取り入れる。

**【今年度の評価】**  
 ・ソーシャルスキルトレーニングは、星の子学級では月1回実施していたが、他の学年は、担任によって差があった。  
 ・話し方・聞き方については、キャリアプレートを各自で活用できたが、組織的には全体で共有することができなかった。  
 ・ペア活動は1・6年のみ、コロナ対応のこともあり、異学年活動の場はなかった。  
 ・小集団の活動は、各学年の実態に合わせてできた。

**【改善策】**  
 ・ソーシャルスキルトレーニングを全体で、組織的に行うのは時間的に厳しいので、プランから外し、学活や行事等を通して、かかわり合う力やチームワーク力を育てる。  
 ・午前5時間日課を通年で行うのならば、縦割り清掃は時間的に無理なので、清掃は各学級で協力して取り組む。  
 ・1・6年のペア活動や幼稚園、浜松特支等の交流は、効果が大きいので、継続する。

### 学校関係者評価

・いじめ防止の取組については、日常の指導のおかげで子供たちも安心して登校できていると思う。今後も続けてほしい。  
 ・「授業が楽しい」と思っている子供が80パーセント以上いることがいい。勉強した成果を目に見える形で子供たちが実感できる工夫が必要だと思う。  
 ・昼休みの遊びが限定されてしまっている気がする。

### 改善策

・いじめ対策は、今後も学校体制で日常の指導が行えるよう、いじめ対策委員会や校内研修等で全職員の共通理解を図る。  
 ・様々な運動能力向上と運動に対する意欲向上のために、運動委員会主催の運動イベントを企画することで、子供たちの生活における運動の日常化を図る。